

経営理念	【保育目標】 みつけたよ 自分らしさとおもしろさ しぜんともだち 佐古キッズ 【経営目標】 『主体者としての心を育み、自己肯定感や人への信頼感を身につけていく保育の在り方をめざす』 〈子ども像〉 健康でたくましい子ども。やさしく思いやりのある子ども。自分で考え話しが聞ける子ども。なかよく協力する子ども。 〈保育所像〉 子どもの最善の利益を考慮し、健全な心身の育成のための「子どもにふさわしい生活の場」として、環境を通して養護と教育を一体的に行う保育所 保護者の子育てを支援する保育所 〈保育士像〉 子どもを見る目を豊かにしよう 子どもの最善の利益に立とう 仲間と創造し協働しよう 保護者と共に育とう育てよう
------	---

中期経営目標		短 期 経 営 目 標 (評価項目)	自 己 評 価		保育所関係者評価		改 善 策 等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 一人一人が自分らしさを発揮しながら遊ぶための環境づくり	① 子どもの内面や思いを読み取り、主体性を育むための保育者の援助を実践する	子どもたちの興味や関心を子どもたちの姿から探り、保育者の願いと重ねながら関わってきた。また、年齢によっては、仕草や表情で子どもの思いを読み取り言葉にして返したり、応答的な関わりを心掛けてきた。子どもがしている事に関心を寄せ保育者も一緒に遊ぶことで、子どもたちの『やってみたい』意欲に繋がっていた。	A	・一人一人の子どもを丁寧にみとりながら幼児理解に努め、興味や関心に基づいて活動に向かう手だてや準備が適切に行われている。また送迎時等に、保育者から保護者に子どもの成長や関わり方のアドバイスも聞けて、一緒に子どもの成長を支えてくれていると実感できる。 ・年間を通じて、年齢に応じて計画的に身体を動かす遊びに取り組みしており、身体を使った遊びに苦手意識がある子どもや一人一人に応じた細かい配慮をしながら実践に活かすことができています。	A	引き続き、子ども一人一人の興味関心を読み取りながら子どもが主体性をもって遊べるように保育者自身が人的環境としての役割があることを意識しながら取り組んでいく。
		② しなやかな身体づくりのための取り組みを行う	一年間を通して、身体を使った年齢に応じた遊びを展開し、子どもたちが意欲的に身体を動かす楽しさが味わえるような環境を整えた。異年齢児の遊びに関心をもちいろいろな事に挑戦しようとする姿も見られていた。発達に適した運動遊具や配置の仕方、安全面への配慮など職員間で意識して実践できた。また、リズム運動や体操など音楽に合わせて楽しみながらできる活動も指導計画に位置づけて実践していく事が課題である。	B	・年間を通じて、年齢に応じて計画的に身体を動かす遊びに取り組みしており、身体を使った遊びに苦手意識がある子どもや一人一人に応じた細かい配慮をしながら実践に活かすことができています。 ・季節に応じた自然物や素材を用いてその時期に応じた遊びが展開され子どもたちにとって様々な経験ができています。	A	年間を通じてそれぞれの年齢や発達に応じた、指導計画に基づき、意欲的に身体を動かして遊べる環境作りに取り組んでいく。
		③ 乳幼児期の発達に適した環境構成や遊具の活用を工夫する	それぞれの年齢の応じ興味、関心を探りながら、子どもたちに経験させたいことを考慮し、遊具や用具、素材について季節に応じた子どもの扱いやすい物や大きさ、自然物、それらを置く場所、安全面にも配慮しながら遊びに取り入れることが出来る環境を整える事により、子どもたちが自ら遊び、興味をもって繰り返し試したり工夫したりして遊ぶ姿に繋がった。今後は職員が様々な遊びのバリエーションを学び実践を深める事が課題である。	B	・季節に応じた自然物や素材を用いてその時期に応じた遊びが展開され子どもたちにとって様々な経験ができています。	A	引き続き、季節に応じた自然物を用いた遊びや、遊具や用具、素材について子どもたちに経験させたいことを踏まえながら、職員間で様々な遊びのバリエーションを増やせるように取り組んでいく。
職員の育成・資質向上や運営	○ 共通課題に向かう職員の協力体制	① 報告・連絡・相談に努め、他の職員と互いの良さを認め合い協働する	クラスに関わる職員間では、口頭や引継ぎノートを活用し必要な情報の共有に努めた。学年間での話し合いはできたが、共通理解の部分では学年団によって難しさがあったことは課題である。	B	・来所した際や、送迎時に職員同士で話し合いを持っている様子を見かける。必要な情報の共有を日々大切にしていることが分かる。日々の取り組みが保育実践や保護者対応に繋がっていると感じられる。	B	引き続き、話しやすい雰囲気作りのなか、職員間で互いの良さを認めながら協働していけるように取り組んでいく。
		② 責任をもって自身の職務を遂行する	自分の役割を理解し責任をもって取り組むように意識していたが、内容によっては十分理解することが難しく見通しを持って計画的に進める事が難しいときもあった。また、ガイドラインを活用しながら自分の課題を見出しスキルアップに繋がるように努めたことは成果であった。	B	・防災・安全管理については、日々の避難訓練や感染症などが流行した際には保護者に周知してくれたり園全体で配慮してくれている。	B	自身の課題に対して、更なるスキルアップできるように資質向上を目指し、自己研鑽に努める。
		③ 防災・安全管理についての知識を深め実践に活かす	子どもたちが安全に遊べるように室内外の環境、遊具、用具などの安全点検の実施や子どもたちを見守る職員間の連携を意識して日々取り組むことができた。防災、感染症対策、午睡チェック、健康観察などは、安全管理を意識して実践できた。様々な事を想定して保育所全体の安全管理を理解することが課題である。	B		A	防災・安全管理について危機管理マニュアル等を理解して、保育実践に活かせるようにしていく。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に親しまれる保育所	① 保育所の取り組みや子どもの育ちを保護者に伝えるための実践を行う	毎日の連絡帳への記入、クラス便りやミニ便り等で日々の保育内容を子どもたちの活動だけではなく、子どもたちが経験していることを発信し、子どもたちの育ちを伝えるための工夫ができた。学年によってはお便りの回数が月1回程度であることもあったので、月2回程度に増やしていく等改善も必要である。保護者アンケートでも、『遊びの様子や子どもの成長を分かりやすく伝えてくれる』の項目では、84%の保護者からの評価があった。	B	・日々の連絡帳やミニ便り等で子どもたちの様子を分かりやすく伝えてくれている。毎日、楽しみにしている保護者も多いと思う。 ・異年齢児の交流は、日々の保育のなかで充実できていると感じる。また小学校との連携は小学校としてたくさん学びがあり連携が深まる取り組みができていた。	A	引き続き、保護者に分かりやすく子どもの成長を伝えるために写真を用いたり、ダイレクトに発信できるように工夫をしていく。
		② 学年・異年齢や保幼小中と連携し、kどもの育ちや学びが繋がるための実践を行う	小学校との連携活動では、保育者体験や園内研修への参加等、教職員が互いに子どもの経験していることを共有する機会を設ける事ができ相互理解が深まった。異年齢児との交流は、日々の保育計画に位置づけ共有していく事が課題である。子ども同士が刺激を受け合いながら遊びが展開されるように保育内容の充実を図ることができた。	B		A	今年度の学びを検証し、来年度も子どもたちの連続した育ちを支えていけるような連携交流の充実に努める。また連携の内容を職員全体で共有できるような機会を設ける。